「広域緊急援助隊刑事部隊遺族支援班に従事して」

警務部警務課（男性）

広域緊急援助隊刑事部隊遺族支援（以下、遺族支援班）の第１次部隊は、発災直後の３月12日未明に岩手県へ向かい、その後も班員を替えながら同県内で懸命に支援を行いました。私は３月14日から３月20日まで、３月29日から４月４日まで、及び４月16日から４月25日まで３回にわたり遺族支援班に従事しました。

２回目に従事したときのことです。女児の御遺体が運ばれてきたとき、検視班は、心を込めて御遺体をきれいにしました。当日のうちに、女児の祖母２人が身元を確認されました。「習っていたバレエの化粧をしているみたいにきれいだねぇ・・・。」と泣きながらおっしゃいました。大震災から３週間が経過していたにもかかわらず、女児の顔は本当にきれいでした。戦場のようなこの環境においては、これこそが最大の心のケアだと思いました。同時に、本県検視班を心から誇りに思いました。

翌日、２人の祖母は女児のために新品の洋服を持参しました。３人の遺族支援班員が、祖母と一緒に心を込めてその服を着させてあげました。タンクトップとパンツ、白のハイソックス、黒のズボン、白のパーカー、チェックのスニーカー。このようなときにそろえるのも大変だったでしょう。どうか、天国でお母さんたちと出会って安らかでいてほしい、と祈りました。女児を乗せたワゴン車が出発するまでの数分間、祖母のお供をさせていただきました。「遠いところから来て、良くしてくださってありがとうございました。」とおっしゃってくれましたが、私たちの方こそ、家族のきずなと命の尊さを学ばせていただきました。